

3



日本  
国語  
大辞典

うは—おのん





# 日本國語大辭典

第三卷

編集 日本大辭典刊行会  
発行 小学館

日本国語大辞典 第三卷

昭和四十八年五月一日 第一版第一刷発行 ©  
昭和五十五年七月一日 第一版第六刷発行

編集 日本大辞典刊行会

発行者 相賀徹夫

印刷者 小林清

発行所

株式会社

小学館

東京都千代田区一ツ橋二丁目三十一番  
〔郵便番号〕一〇〇一〔振替〕東京八二二〇〇

造本には注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品の場合は、おとりかえいたします。





ひ出した」②人の気持などを無理に変えさせる。

\*書紀仁徳即位前、我は兄王(いろねのきみ)の志を奪(うばふ)可からざることを知り、\*徒然草「一二九」すて、人を苦しめ、物をしへたくる事、賤しき民の志をもうばふべからず」③取つてなくす。取り去る。\*徒然草「二二八」彼に苦しみをあたへ、命をうばはん事、いかにたまたしからざらん」\*海に生くる人々(葉山嘉樹三九)北海道の寒風は、労働者たちから、その体温をどんどん奪つてしまふ」④心や目を引き付ける。ふつうは、受身の助動詞を伴って用いられる。\*徒然草「七五」世にしがへば、心、外の塵にうばはれてまどひやすく」\*浮世草子「好色一代女(三二)「いづれの工(たくみ)か作りなせる姿の婀娜(やさしく)も、面影美花を欺き、見しうちに女さへ是に奪(うば)ふ」(れける)」。俳諧・奥の細道須賀川「長途のくるしみ、身心つかれ、且は風景に魂うばはれ」\*草枕(夏目漱石)「専らに白いのは、ことさらに人の眼を奪(うば)ふ巧みが見える」〔補注〕中古から近世にかけて「ばふ」という語形もあつた。また複合した「はいあう(奪合)」「はいとる(奪取)」「はいかえす(奪返)などの例も見られる。〔附註〕ウチハラフの約転。人の持っている物を打ちばらうをいう(名言通)。

〔附註〕ウチハラフとも「奪之因」(今史平安〇〇)江戸●〇〇余之因〔附註〕學鏡・色名・義和・王文明・伊原・明彦・天正・鐘頭・黒本・書言

うばうり「姥瓜」(名)植物「まくわうり(真桑瓜)」の異名。\*但言集「姥瓜うはうり(女夫草)」

うばおほし「名」(因)祖母の手であまやかされて養育されること。また、その子。長崎県五島中通島04(んぼおやし)鹿児島県肝属郡99

うばがい「が」(姥貝・雨波貝)「名」バカガイ科の大きな丸みがかつた二枚貝。肉は美味で、むき身、干物、かん詰めにもされる。殻長約一〇センチ。殻は厚くて重く、白色の地に黄褐色の殻皮がある。東北地方からオホツク海にかけて広く分布し、河口に近い浅海の砂底にすむ。冬から春のあいだ桁網(けたあみ)でとる。北寄貝(ほっきがい)。ほっき。\*御伽草子「精進魚類物語類從所収」「年老たれば、うばがいの女貝こそせいにしけれ」〔附註〕ウバガイ 奪之因

うばがいて「乳母池」(名)乳母があやまって、育てていた子を池に落とし、みずから身を投じた、などの伝承をもつ池。また、その伝説。埼玉、長野、静岡などに伝わる。〔附註〕ウバガイケ 奪之因

うばかか「姥唄」(名)(老婆と母親の意から)既婚の女性たちを呼んだ俗称。\*元正問記「他の非をせしり詩文をつくり、おのが学を鼻にかけて多言なるはさらに学者にあらず、縦(ほ)しいままに姥かかか寺参りにて寺を遊ぶ所と思ふ如し」\*駿河土産「一、世上に而判官負(はんがんにい)きとて、うばかか共の寄合て茶吞雑談にする事にて一向用に立ぬ批判と言

物也

うばがしら「姥頭」(名)植物「おきなぐさ(翁草)」の異名。\*重訂本草綱目啓蒙「八、山草「白頭翁、なかくさ(和名鈔)、おきなぐさ、同上略」うばがしら、松前」〔附註〕青森県南部地方(うばがしら)岩手県和賀郡128

うばがねそう「サウ」(名)植物「いずせりょう(伊豆千両)」の異名。\*重訂本草綱目啓蒙「一三、毒草「杜葶山うばがねも、しるども(天竺桂)の一種と同名」白うめもどき(八)うめもどきの白実のものと同名」みかどがしは八種樹家」かしはらん、同上うばがねさう

うばがねもち「名」植物「いずせりょう(伊豆千両)」の異名。\*重訂本草綱目啓蒙「一三、毒草「杜葶山うばがねもち」

うばがね「姥火」(名)怪火。昔、枚岡(ひらおか)明神の神燈の油を盗んだ姥が、神罰によって死後燐火となつて飛び歩くとされる(河内鑑名所記「五」)。\*俳諧・哥仙「大坂俳諧師、姥が火かほしかかほちに飛螢(素玄)」\*浮世草子「名残の友(五)「扱あれなる森より世に沙汰いたす姥(ウバ)が火を御馳走に御目」に懸(か)べし」

うばがふところ「乳母淵」(名)乳母があやまって、育てていた子を落とし、自分も投身したという伝承をもつ淵。また、その伝説。全国に点在する。〔附註〕ウバガフチ 奪之因

うばがふところ「祖母懐・姥懐」(名)①(うばに抱かれていたところの意から)④安全な場所。②風のこない暖かい場所。とくに、南面の山ふところをなす地形で、日だまりの地をいう。また、このような土地は製陶に適していたところから、陶土を産する場所の地名として呼ばれた。尾張国(愛知)豊瀬戸地方のものが有名だが、現在では「そほかい」と称している。うばのふところ。②瀬戸地方の土で作った茶入れの一種。二代目藤四郎がこの良土で茶入れを作ったと伝えられている。\*但言集「祖母懐(ウバカフト)」。③(喫茶書)茶入の条に曰、祖母懐は古瀬戸もあり。又は其後のものも多し有り」③没落した武士の若殿と乳母とに住んだという伝承をもつ地。また、その伝説。全国にこの地名が点在する。〔附註〕ウバガフトコロ 奪之因

うばがふところ「追剥(おいはぎ)に逢(あ)う」安全と思つていたところで、思いもかけない災難を受けること。たとえ。\*浮世草子「世間学者氣質、一、二、サアきりきり出し上れ、こな大べらばうめ

がとらみ付る有さま、徳太郎はうばが懐(フトコロ)で追剥(おいはぎ)に逢(あ)ふた心地」

うばがみ「姥髪」(名)能楽で、姥の面と共につける白髪交りの髪(かつらがみ)。\*檜垣型付「二、大夫、面、老女。覆髪の上に姥髪。かつら帯」〔附註〕ウバガミ 奪之因

うばがもち「餅餅」(名)餅の一種。近江国(滋賀県)草津の名物。近江の郷土官であった六角左京大夫の子孫が滅ぼされたとき、三歳になる遺児を養育するために、寛永(一六二四-一四四)の頃、その乳母が売りはじめたものという(近江名所図会)。うばがもち。\*仮名草子「東海道名所記」五「追分の北南の両廉(かど)の家は、これかくなき草津の姥が餅屋なり。菜阿彌、顔つきはりくつき津のうばが餅馬子(うま)がためにあちをちぎれり」\*浮世草子「西鶴織留」一、四「草津の宿の矢倉といふ所は、姥(ウバ)が餅(モチ)の名物」〔附註〕ウバガモチ 奪之因

うばがもち「餅餅」(名)「うばがもち(姥餅)に同じ。\*浄瑠璃・源平布引「三、天の教か腰か餅(モチ)や、姥(ウバ)がもちいよコレお茶」

うばがもち「餅餅」(名)「うばがもち(姥餅)に同じ。\*浄瑠璃・源平布引「三、天の教か腰か餅(モチ)や、姥(ウバ)がもちいよコレお茶」

うばがもち「餅餅」(名)「うばがもち(姥餅)に同じ。\*浄瑠璃・源平布引「三、天の教か腰か餅(モチ)や、姥(ウバ)がもちいよコレお茶」

うばがわ「か」(姥皮)「名」着ると婆の姿になり、あつては醜くなるという想像上の衣類。昔話の材料の一つで、独立した話は少なく、まます話や蛇婿入澤(へびでむいりだん)と結びついており、最後に姥皮を脱いで美男美女になり、幸福な結婚にいたる。全国に分布し、室町時代にも同名の物語がある。〔附註〕ウバガワ 奪之因

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがき「蕎蕎」(名)植物「よめな(嫁菜)」の古名。\*万葉「二二二」妻もあらば採(と)みて食(た)げまし佐美の山野の上(の)宇波疑(ウハギ)過ぎにけらず(と)柿(小)人麻呂」

うばがく「右白虎」(名)「うばやく(右白虎)」と同じ。\*平家「五都遺」此地の躰(てい)を見るに、左青龍、右白虎(ウハク)高良本(ルビ)、前朱雀、後玄武、四神相應の地也」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」

うばがく「姥口」(名)①歯のない老女の口。また、そのようにすばまった口。\*日葡辞書「bauguchiウバグチに訳す」老女の口。②評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。③評判記「島原集」梅之部「かほの色に訳す」老女の口。口はうば口なり」②茶道で、口がすばまった形の茶碗、茶入れ、罐子(かんす)、香炉、花生け、釜などの称。\*日葡辞書「bauguchiウバグチ」(訳)歯のない老女の口の形をした口の大釜」



も不燃。不可為薪。故里俗、婆殺(ウバコロシ)と云。〔因〕植物、ぬき(振木)。高知県土佐郡廻...

うばざくら 〔姥桜・乳母桜〕名 ①葉が出るのに先だって花がひらく桜の通俗的な総称。花がひらくと...

うばざめ 〔姥殿〕名 ウバザメ科のサメ。全長一、二メートル。岩手県九戸郡...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばざめ 〔姥殿〕名 ウバザメ科のサメ。全長一、二メートル。岩手県九戸郡...

うばざくら 〔姥桜・乳母桜〕名 ①葉が出るのに先だって花がひらく桜の通俗的な総称。花がひらくと...

うばざめ 〔姥殿〕名 ウバザメ科のサメ。全長一、二メートル。岩手県九戸郡...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばしげ 〔姥鳴〕名 ①鳥「おはしげ(姥鳴)」の異名。②鳥「やましげ(山鳴)」の異名。〔因〕...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...

うばたま 〔烏羽玉〕名 ①植物、楡扇(ひおうぎ)の種子。丸くて黒い。射干玉(ぬばたま)...









神③に同じ。御加草子・熊野の本地「月の障りとどまりて、うぶの神の御身に入らせ給ひて」

①産土神(うぶすながみ)。神奈川県津久井郡285名古屋57(おほのかみさま)群馬県野津万場240うぶの土民(とみん)生まれながらの老百姓。\*浄瑠璃・源頼家源実朝鎌倉三代記一七「死したる藤三が名をかって、うぶの土民に拵(こしらへ)すましうぶの宮(みや)産土神(うぶすながみの社殿)。

\*濃国埴科郡榊原在中条宮弁才天由来記「当所の産の宮諏訪大明神へ参籠して」

うぶあけ【産明】名「うぶあけ産屋明」に同じ。うぶあけ【産上】名「うぶあけ産屋明」に同じ。うぶい【産井】名産湯(うぶい)の水を汲ぐ(む井戸)。

うぶい【産生井】名「うぶい」に同じ。うぶい【産石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。うぶい【産小石】名「うぶい」に同じ。

うぶかき【産瘡】名「うぶかき」とも。赤子がもって生まれた頭の瘡。\*日葡辞書「Vucusa(ウブカサ)または、vucaga(ウブガサ)または、ウブセ」

うぶかぜ【産風邪】名「うぶかぜ」とも。赤子がもつて来た風邪。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがたな【初刀】名「うぶがたな」とも。赤子がもつて来た刀。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶがみ【産神】名「うぶがみ」とも。赤子がもつて来た神。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

戦「うぶきに越羅(えつら)・蜀錦(しよくきん)を裁ち、御座今やと用意ある」\*書言字節用集十六、産衣(ウブキ)ウブギ。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶぎ【産衣】名「うぶぎ」とも。赤子がもつて来た衣。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

の生えた定子の頬に」\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

うぶげ【産毛】名「うぶげ」とも。赤子がもつて来た毛。\*日葡辞書「Vubacaeo(ウブカゼ) ヒタ」

四七年開校。スウェーデン最古の大学。 園圃ウブ  
サラダイガク 園圃  
うふし 浄瑠璃で、文章が一段落するところにつ  
ける。ふし落としの一種。下降する旋律の途中で、  
音を浮かして変化を与える曲節。\*浄瑠璃・義経千本  
桜「二地ハル吹く風にフシつれて聞ゆる。ときの声。  
物すさまじきウツシ気色かな」

うぶし 名 因園物を言えない人。おし。鳥根泉那賀  
郡73 山口県防府72  
うぶしな 産土 名 「うぶすな(産土)に同じ。\*日  
葡辞書「ウブスナ。略シモでは Uvuxina(ウブシ  
ナ)という」

うぶすな 産果 名 跡継ぎの男児をもうけるための  
女。下借腹(げしやくばら)。\*雜俳「卵花かつら。犬名  
へ産果肝煎りほうび取る」  
うぶすな 産土・生土・産社・産神 名 「うぶすな  
(とも) ①人の出生の地。生地。故郷。うぶしな。\*書  
紀「推古三年一〇月(山崎本訓)葛城原(かづらき  
のあがたは、元もと)臣(やつかれ)が本居(ウブス  
ナ)なり。故(かれ)、其の原に因りて姓名(かばねな  
を為せり)。\*今昔一九二二「山にて指せる事無かり  
ければ、山を去りて本の生土にて」 ②「うぶすなが  
み(産土神)に同じ。うぶしな。\*今昔一三〇・六七条  
辺(わたり)にて産れたりければ、産神(御)おはす  
とて二月(き)さらさるの初午の日(稲荷へ参らむとて)  
\*壺巻鈔一八「うぶすなと云は何事ぞ。当時は所生の所  
の神を三敷。或は本居と書き、或は産生と書き、又宇  
夫須那(ウフスナ)共書也」\*読本「権説弓張月一前・七  
回「或は海神(わたつみ)に祈請し、或は土地(ウブス  
ナ)に幣帛(みてくら)献(たてまつり) 園圃(1)生産  
の意のウブスナ、地または土の義のナ(二語)かな  
り、はじめ、人の生まれた土地をさした「壺巻鈔・名言  
通・うぶすな考(新村出)。(2)もと、産神、ウノカミと  
も同じだった(国史大辞典「柳田国男」)。(3)産屋の意  
のウブス(産果)。ナは土の義(日本古語大辞典「松岡  
静雄」)。(4)ウムセルニハの反(名語記)。ウブスニハ  
(産生場)の約か(大言海)。(5)ウブスナ(産生)の転  
「言元佛」。(6)出産の時、氏神の社の土をとって産屋  
に撒く風習がもとでいう(俚言集覧)。(産園舎)オボ  
シナ(南伊勢)オボスナ(大和)オボツナ・オボブス  
ナ・オボツツナ・オボシナ・オボスナ(秋田)オボ  
ースナ(秋田鹿角)オボシナ(秋田・千葉)オボスナ(千  
葉)オボツナ(岩手)オボシナ(青森)園圃(2)余  
園圃(3)園圃(4)園圃(5)園圃(6)園圃(7)園圃(8)園圃(9)園圃(10)園圃(11)園圃(12)園圃(13)園圃(14)園圃(15)園圃(16)園圃(17)園圃(18)園圃(19)園圃(20)園圃(21)園圃(22)園圃(23)園圃(24)園圃(25)園圃(26)園圃(27)園圃(28)園圃(29)園圃(30)園圃(31)園圃(32)園圃(33)園圃(34)園圃(35)園圃(36)園圃(37)園圃(38)園圃(39)園圃(40)園圃(41)園圃(42)園圃(43)園圃(44)園圃(45)園圃(46)園圃(47)園圃(48)園圃(49)園圃(50)園圃(51)園圃(52)園圃(53)園圃(54)園圃(55)園圃(56)園圃(57)園圃(58)園圃(59)園圃(60)園圃(61)園圃(62)園圃(63)園圃(64)園圃(65)園圃(66)園圃(67)園圃(68)園圃(69)園圃(70)園圃(71)園圃(72)園圃(73)園圃(74)園圃(75)園圃(76)園圃(77)園圃(78)園圃(79)園圃(80)園圃(81)園圃(82)園圃(83)園圃(84)園圃(85)園圃(86)園圃(87)園圃(88)園圃(89)園圃(90)園圃(91)園圃(92)園圃(93)園圃(94)園圃(95)園圃(96)園圃(97)園圃(98)園圃(99)園圃(100)園圃(101)園圃(102)園圃(103)園圃(104)園圃(105)園圃(106)園圃(107)園圃(108)園圃(109)園圃(110)園圃(111)園圃(112)園圃(113)園圃(114)園圃(115)園圃(116)園圃(117)園圃(118)園圃(119)園圃(120)園圃(121)園圃(122)園圃(123)園圃(124)園圃(125)園圃(126)園圃(127)園圃(128)園圃(129)園圃(130)園圃(131)園圃(132)園圃(133)園圃(134)園圃(135)園圃(136)園圃(137)園圃(138)園圃(139)園圃(140)園圃(141)園圃(142)園圃(143)園圃(144)園圃(145)園圃(146)園圃(147)園圃(148)園圃(149)園圃(150)園圃(151)園圃(152)園圃(153)園圃(154)園圃(155)園圃(156)園圃(157)園圃(158)園圃(159)園圃(160)園圃(161)園圃(162)園圃(163)園圃(164)園圃(165)園圃(166)園圃(167)園圃(168)園圃(169)園圃(170)園圃(171)園圃(172)園圃(173)園圃(174)園圃(175)園圃(176)園圃(177)園圃(178)園圃(179)園圃(180)園圃(181)園圃(182)園圃(183)園圃(184)園圃(185)園圃(186)園圃(187)園圃(188)園圃(189)園圃(190)園圃(191)園圃(192)園圃(193)園圃(194)園圃(195)園圃(196)園圃(197)園圃(198)園圃(199)園圃(200)園圃(201)園圃(202)園圃(203)園圃(204)園圃(205)園圃(206)園圃(207)園圃(208)園圃(209)園圃(210)園圃(211)園圃(212)園圃(213)園圃(214)園圃(215)園圃(216)園圃(217)園圃(218)園圃(219)園圃(220)園圃(221)園圃(222)園圃(223)園圃(224)園圃(225)園圃(226)園圃(227)園圃(228)園圃(229)園圃(230)園圃(231)園圃(232)園圃(233)園圃(234)園圃(235)園圃(236)園圃(237)園圃(238)園圃(239)園圃(240)園圃(241)園圃(242)園圃(243)園圃(244)園圃(245)園圃(246)園圃(247)園圃(248)園圃(249)園圃(250)園圃(251)園圃(252)園圃(253)園圃(254)園圃(255)園圃(256)園圃(257)園圃(258)園圃(259)園圃(260)園圃(261)園圃(262)園圃(263)園圃(264)園圃(265)園圃(266)園圃(267)園圃(268)園圃(269)園圃(270)園圃(271)園圃(272)園圃(273)園圃(274)園圃(275)園圃(276)園圃(277)園圃(278)園圃(279)園圃(280)園圃(281)園圃(282)園圃(283)園圃(284)園圃(285)園圃(286)園圃(287)園圃(288)園圃(289)園圃(290)園圃(291)園圃(292)園圃(293)園圃(294)園圃(295)園圃(296)園圃(297)園圃(298)園圃(299)園圃(300)園圃(301)園圃(302)園圃(303)園圃(304)園圃(305)園圃(306)園圃(307)園圃(308)園圃(309)園圃(310)園圃(311)園圃(312)園圃(313)園圃(314)園圃(315)園圃(316)園圃(317)園圃(318)園圃(319)園圃(320)園圃(321)園圃(322)園圃(323)園圃(324)園圃(325)園圃(326)園圃(327)園圃(328)園圃(329)園圃(330)園圃(331)園圃(332)園圃(333)園圃(334)園圃(335)園圃(336)園圃(337)園圃(338)園圃(339)園圃(340)園圃(341)園圃(342)園圃(343)園圃(344)園圃(345)園圃(346)園圃(347)園圃(348)園圃(349)園圃(350)園圃(351)園圃(352)園圃(353)園圃(354)園圃(355)園圃(356)園圃(357)園圃(358)園圃(359)園圃(360)園圃(361)園圃(362)園圃(363)園圃(364)園圃(365)園圃(366)園圃(367)園圃(368)園圃(369)園圃(370)園圃(371)園圃(372)園圃(373)園圃(374)園圃(375)園圃(376)園圃(377)園圃(378)園圃(379)園圃(380)園圃(381)園圃(382)園圃(383)園圃(384)園圃(385)園圃(386)園圃(387)園圃(388)園圃(389)園圃(390)園圃(391)園圃(392)園圃(393)園圃(394)園圃(395)園圃(396)園圃(397)園圃(398)園圃(399)園圃(400)園圃(401)園圃(402)園圃(403)園圃(404)園圃(405)園圃(406)園圃(407)園圃(408)園圃(409)園圃(410)園圃(411)園圃(412)園圃(413)園圃(414)園圃(415)園圃(416)園圃(417)園圃(418)園圃(419)園圃(420)園圃(421)園圃(422)園圃(423)園圃(424)園圃(425)園圃(426)園圃(427)園圃(428)園圃(429)園圃(430)園圃(431)園圃(432)園圃(433)園圃(434)園圃(435)園圃(436)園圃(437)園圃(438)園圃(439)園圃(440)園圃(441)園圃(442)園圃(443)園圃(444)園圃(445)園圃(446)園圃(447)園圃(448)園圃(449)園圃(450)園圃(451)園圃(452)園圃(453)園圃(454)園圃(455)園圃(456)園圃(457)園圃(458)園圃(459)園圃(460)園圃(461)園圃(462)園圃(463)園圃(464)園圃(465)園圃(466)園圃(467)園圃(468)園圃(469)園圃(470)園圃(471)園圃(472)園圃(473)園圃(474)園圃(475)園圃(476)園圃(477)園圃(478)園圃(479)園圃(480)園圃(481)園圃(482)園圃(483)園圃(484)園圃(485)園圃(486)園圃(487)園圃(488)園圃(489)園圃(490)園圃(491)園圃(492)園圃(493)園圃(494)園圃(495)園圃(496)園圃(497)園圃(498)園圃(499)園圃(500)園圃(501)園圃(502)園圃(503)園圃(504)園圃(505)園圃(506)園圃(507)園圃(508)園圃(509)園圃(510)園圃(511)園圃(512)園圃(513)園圃(514)園圃(515)園圃(516)園圃(517)園圃(518)園圃(519)園圃(520)園圃(521)園圃(522)園圃(523)園圃(524)園圃(525)園圃(526)園圃(527)園圃(528)園圃(529)園圃(530)園圃(531)園圃(532)園圃(533)園圃(534)園圃(535)園圃(536)園圃(537)園圃(538)園圃(539)園圃(540)園圃(541)園圃(542)園圃(543)園圃(544)園圃(545)園圃(546)園圃(547)園圃(548)園圃(549)園圃(550)園圃(551)園圃(552)園圃(553)園圃(554)園圃(555)園圃(556)園圃(557)園圃(558)園圃(559)園圃(560)園圃(561)園圃(562)園圃(563)園圃(564)園圃(565)園圃(566)園圃(567)園圃(568)園圃(569)園圃(570)園圃(571)園圃(572)園圃(573)園圃(574)園圃(575)園圃(576)園圃(577)園圃(578)園圃(579)園圃(580)園圃(581)園圃(582)園圃(583)園圃(584)園圃(585)園圃(586)園圃(587)園圃(588)園圃(589)園圃(590)園圃(591)園圃(592)園圃(593)園圃(594)園圃(595)園圃(596)園圃(597)園圃(598)園圃(599)園圃(600)園圃(601)園圃(602)園圃(603)園圃(604)園圃(605)園圃(606)園圃(607)園圃(608)園圃(609)園圃(610)園圃(611)園圃(612)園圃(613)園圃(614)園圃(615)園圃(616)園圃(617)園圃(618)園圃(619)園圃(620)園圃(621)園圃(622)園圃(623)園圃(624)園圃(625)園圃(626)園圃(627)園圃(628)園圃(629)園圃(630)園圃(631)園圃(632)園圃(633)園圃(634)園圃(635)園圃(636)園圃(637)園圃(638)園圃(639)園圃(640)園圃(641)園圃(642)園圃(643)園圃(644)園圃(645)園圃(646)園圃(647)園圃(648)園圃(649)園圃(650)園圃(651)園圃(652)園圃(653)園圃(654)園圃(655)園圃(656)園圃(657)園圃(658)園圃(659)園圃(660)園圃(661)園圃(662)園圃(663)園圃(664)園圃(665)園圃(666)園圃(667)園圃(668)園圃(669)園圃(670)園圃(671)園圃(672)園圃(673)園圃(674)園圃(675)園圃(676)園圃(677)園圃(678)園圃(679)園圃(680)園圃(681)園圃(682)園圃(683)園圃(684)園圃(685)園圃(686)園圃(687)園圃(688)園圃(689)園圃(690)園圃(691)園圃(692)園圃(693)園圃(694)園圃(695)園圃(696)園圃(697)園圃(698)園圃(699)園圃(700)園圃(701)園圃(702)園圃(703)園圃(704)園圃(705)園圃(706)園圃(707)園圃(708)園圃(709)園圃(710)園圃(711)園圃(712)園圃(713)園圃(714)園圃(715)園圃(716)園圃(717)園圃(718)園圃(719)園圃(720)園圃(721)園圃(722)園圃(723)園圃(724)園圃(725)園圃(726)園圃(727)園圃(728)園圃(729)園圃(730)園圃(731)園圃(732)園圃(733)園圃(734)園圃(735)園圃(736)園圃(737)園圃(738)園圃(739)園圃(740)園圃(741)園圃(742)園圃(743)園圃(744)園圃(745)園圃(746)園圃(747)園圃(748)園圃(749)園圃(750)園圃(751)園圃(752)園圃(753)園圃(754)園圃(755)園圃(756)園圃(757)園圃(758)園圃(759)園圃(760)園圃(761)園圃(762)園圃(763)園圃(764)園圃(765)園圃(766)園圃(767)園圃(768)園圃(769)園圃(770)園圃(771)園圃(772)園圃(773)園圃(774)園圃(775)園圃(776)園圃(777)園圃(778)園圃(779)園圃(780)園圃(781)園圃(782)園圃(783)園圃(784)園圃(785)園圃(786)園圃(787)園圃(788)園圃(789)園圃(790)園圃(791)園圃(792)園圃(793)園圃(794)園圃(795)園圃(796)園圃(797)園圃(798)園圃(799)園圃(800)園圃(801)園圃(802)園圃(803)園圃(804)園圃(805)園圃(806)園圃(807)園圃(808)園圃(809)園圃(810)園圃(811)園圃(812)園圃(813)園圃(814)園圃(815)園圃(816)園圃(817)園圃(818)園圃(819)園圃(820)園圃(821)園圃(822)園圃(823)園圃(824)園圃(825)園圃(826)園圃(827)園圃(828)園圃(829)園圃(830)園圃(831)園圃(832)園圃(833)園圃(834)園圃(835)園圃(836)園圃(837)園圃(838)園圃(839)園圃(840)園圃(841)園圃(842)園圃(843)園圃(844)園圃(845)園圃(846)園圃(847)園圃(848)園圃(849)園圃(850)園圃(851)園圃(852)園圃(853)園圃(854)園圃(855)園圃(856)園圃(857)園圃(858)園圃(859)園圃(860)園圃(861)園圃(862)園圃(863)園圃(864)園圃(865)園圃(866)園圃(867)園圃(868)園圃(869)園圃(870)園圃(871)園圃(872)園圃(873)園圃(874)園圃(875)園圃(876)園圃(877)園圃(878)園圃(879)園圃(880)園圃(881)園圃(882)園圃(883)園圃(884)園圃(885)園圃(886)園圃(887)園圃(888)園圃(889)園圃(890)園圃(891)園圃(892)園圃(893)園圃(894)園圃(895)園圃(896)園圃(897)園圃(898)園圃(899)園圃(900)園圃(901)園圃(902)園圃(903)園圃(904)園圃(905)園圃(906)園圃(907)園圃(908)園圃(909)園圃(910)園圃(911)園圃(912)園圃(913)園圃(914)園圃(915)園圃(916)園圃(917)園圃(918)園圃(919)園圃(920)園圃(921)園圃(922)園圃(923)園圃(924)園圃(925)園圃(926)園圃(927)園圃(928)園圃(929)園圃(930)園圃(931)園圃(932)園圃(933)園圃(934)園圃(935)園圃(936)園圃(937)園圃(938)園圃(939)園圃(940)園圃(941)園圃(942)園圃(943)園圃(944)園圃(945)園圃(946)園圃(947)園圃(948)園圃(949)園圃(950)園圃(951)園圃(952)園圃(953)園圃(954)園圃(955)園圃(956)園圃(957)園圃(958)園圃(959)園圃(960)園圃(961)園圃(962)園圃(963)園圃(964)園圃(965)園圃(966)園圃(967)園圃(968)園圃(969)園圃(970)園圃(971)園圃(972)園圃(973)園圃(974)園圃(975)園圃(976)園圃(977)園圃(978)園圃(979)園圃(980)園圃(981)園圃(982)園圃(983)園圃(984)園圃(985)園圃(986)園圃(987)園圃(988)園圃(989)園圃(990)園圃(991)園圃(992)園圃(993)園圃(994)園圃(995)園圃(996)園圃(997)園圃(998)園圃(999)園圃(1000)園圃(1001)園圃(1002)園圃(1003)園圃(1004)園圃(1005)園圃(1006)園圃(1007)園圃(1008)園圃(1009)園圃(1010)園圃(1011)園圃(1012)園圃(1013)園圃(1014)園圃(1015)園圃(1016)園圃(1017)園圃(1018)園圃(1019)園圃(1020)園圃(1021)園圃(1022)園圃(1023)園圃(1024)園圃(1025)園圃(1026)園圃(1027)園圃(1028)園圃(1029)園圃(1030)園圃(1031)園圃(1032)園圃(1033)園圃(1034)園圃(1035)園圃(1036)園圃(1037)園圃(1038)園圃(1039)園圃(1040)園圃(1041)園圃(1042)園圃(1043)園圃(1044)園圃(1045)園圃(1046)園圃(1047)園圃(1048)園圃(1049)園圃(1050)園圃(1051)園圃(1052)園圃(1053)園圃(1054)園圃(1055)園圃(1056)園圃(1057)園圃(1058)園圃(1059)園圃(1060)園圃(1061)園圃(1062)園圃(1063)園圃(1064)園圃(1065)園圃(1066)園圃(1067)園圃(1068)園圃(1069)園圃(1070)園圃(1071)園圃(1072)園圃(1073)園圃(1074)園圃(1075)園圃(1076)園圃(1077)園圃(1078)園圃(1079)園圃(1080)園圃(1081)園圃(1082)園圃(1083)園圃(1084)園圃(1085)園圃(1086)園圃(1087)園圃(1088)園圃(1089)園圃(1090)園圃(1091)園圃(1092)園圃(1093)園圃(1094)園圃(1095)園圃(1096)園圃(1097)園圃(1098)園圃(1099)園圃(1100)園圃(1101)園圃(1102)園圃(1103)園圃(1104)園圃(1105)園圃(1106)園圃(1107)園圃(1108)園圃(1109)園圃(1110)園圃(1111)園圃(1112)園圃(1113)園圃(1114)園圃(1115)園圃(1116)園圃(1117)園圃(1118)園圃(1119)園圃(1120)園圃(1121)園圃(1122)園圃(1123)園圃(1124)園圃(1125)園圃(1126)園圃(1127)園圃(1128)園圃(1129)園圃(1130)園圃(1131)園圃(1132)園圃(1133)園圃(1134)園圃(1135)園圃(1136)園圃(1137)園圃(1138)園圃(1139)園圃(1140)園圃(1141)園圃(1142)園圃(1143)園圃(1144)園圃(1145)園圃(1146)園圃(1147)園圃(1148)園圃(1149)園圃(1150)園圃(1151)園圃(1152)園圃(1153)園圃(1154)園圃(1155)園圃(1156)園圃(1157)園圃(1158)園圃(1159)園圃(1160)園圃(1161)園圃(1162)園圃(1163)園圃(1164)園圃(1165)園圃(1166)園圃(1167)園圃(1168)園圃(1169)園圃(1170)園圃(1171)園圃(1172)園圃(1173)園圃(1174)園圃(1175)園圃(1176)園圃(1177)園圃(1178)園圃(1179)園圃(1180)園圃(1181)園圃(1182)園圃(1183)園圃(1184)園圃(1185)園圃(1186)園圃(1187)園圃(1188)園圃(1189)園圃(1190)園圃(1191)園圃(1192)園圃(1193)園圃(1194)園圃(1195)園圃(1196)園圃(1197)園圃(1198)園圃(1199)園圃(1200)園圃(1201)園圃(1202)園圃(1203)園圃(1204)園圃(1205)園圃(1206)園圃(1207)園圃(1208)園圃(1209)園圃(1210)園圃(1211)園圃(1212)園圃(1213)園圃(1214)園圃(1215)園圃(1216)園圃(1217)園圃(1218)園圃(1219)園圃(1220)園圃(1221)園圃(1222)園圃(1223)園圃(1224)園圃(1225)園圃(1226)園圃(1227)園圃(1228)園圃(1229)園圃(1230)園圃(1231)園圃(1232)園圃(1233)園圃(1234)園圃(1235)園圃(1236)園圃(1237)園圃(1238)園圃(1239)園圃(1240)園圃(1241)園圃(1242)園圃(1243)園圃(1244)園圃(1245)園圃(1246)園圃(1247)園圃(1248)園圃(1249)園圃(1250)園圃(1251)園圃(1252)園圃(1253)園圃(1254)園圃(1255)園圃(1256)園圃(1257)園圃(1258)園圃(1259)園圃(1260)園圃(1261)園圃(1262)園圃(1263)園圃(1264)園圃(1265)園圃(1266)園圃(1267)園圃(1268)園圃(1269)園圃(1270)園圃(1271)園圃(1272)園圃(1273)園圃(1274)園圃(1275)園圃(1276)園圃(1277)園圃(1278)園圃(1279)園圃(1280)園圃(1281)園圃(1282)園圃(1283)園圃(1284)園圃(1285)園圃(1286)園圃(1287)園圃(1288)園圃(1289)園圃(1290)園圃(1291)園圃(1292)園圃(1293)園圃(1294)園圃(1295)園圃(1296)園圃(1297)園圃(1298)園圃(1299)園圃(1300)園圃(1301)園圃(1302)園圃(1303)園圃(1304)園圃(1305)園圃(1306)園圃(1307)園圃(1308)園圃(1309)園圃(1310)園圃(1311)園圃(1312)園圃(1313)園圃(1314)園圃(1315)園圃(1316)園圃(1317)園圃(1318)園圃(1319)園圃(1320)園圃(1321)園圃(1322)園圃(1323)園圃(1324)園圃(1325)園圃(1326)園圃(1327)園圃(1328)園圃(1329)園圃(1330)園圃(1331)園圃(1332)園圃(1333)園圃(1334)園圃(1335)園圃(1336)園圃(1337)園圃(1338)園圃(1339)園圃(1340)園圃(1341)園圃(1342)園圃(1343)園圃(1344)園圃(1345)園圃(1346)園圃(1347)園圃(1348)園圃(1349)園圃(1350)園圃(1351)園圃(1352)園圃(1353)園圃(1354)園圃(1355)園圃(1356)園圃(1357)園圃(1358)園圃(1359)園圃(1360)園圃(1361)園圃(1362)園圃(1363)園圃(1364)園圃(1365)園圃(1366)園圃(1367)園圃(1368)園圃(1369)園圃(1370)園圃(1371)園圃(1372)園圃(1373)園圃(1374)園圃(1375)園圃(1376)園圃(1377)園圃(1378)園圃(1379)園圃(1380)園圃(1381)園圃(1382)園圃(1383)園圃(1384)園圃(1385)園圃(1386)園圃(1387)園圃(1388)園圃(1389)園圃(1390)園圃(1391)園圃(1392)園圃(1393)園圃(1394)園圃(1395)園圃(1396)園圃(1397)園圃(1398)園圃(1399)園圃(1400)園圃(1401)園圃(1402)園圃(1403)園圃(1404)園圃(1405)園圃(1406)園圃(1407)園圃(1408)園圃(1409)園圃(1410)園圃(1411)園圃(1412)園圃(1413)園圃(1414)園圃(1415)園圃(1416)園圃(1417)園圃(1418)園圃(1419)園圃(1420)園圃(1421)園圃(1422)園圃(1423)園圃(1424)園圃(1425)園圃(1426)園圃(1427)園圃(1428)園圃(1429)園圃(1430)園圃(1431)園圃(1432)園圃(1433)園圃(1434)園圃(1435)園圃(1436)園圃(1437)園圃(1438)園圃(1439)園圃(1440)園圃(1441)園圃(1442)園圃(1443)園圃(1444)園圃(1445)園圃(1446)園圃(1447)園圃(1448)園圃(1449)園圃(1450)園圃(1451)園圃(1452)園圃(1453)園圃(1454)園圃(1455)園圃(1456)園圃(1457)園圃(1458)園圃(1459)園圃(1460)園圃(1461)園圃(1462)園圃(1463)園圃(1464)園圃(1465)園圃(1466)園圃(1467)園圃(1468)園圃(1469)園圃(1470)園圃(1471)園圃(1472)園圃(1473)園圃(1474)園圃(1475)園圃(1476)園圃(1477)園圃(1478)園圃(1479)園圃(1480)園圃(1481)園圃(1482)園圃(1483)園圃(1484)園圃(1485)園圃(1486)園圃(1487)園圃(1488)園圃(1489)園圃(1490)園圃(1491)園圃(1492)園圃(1493)園圃(1494)園圃(1495)園圃(1496)園圃(1497)園圃(1498)園圃(1499)園圃(1500)園圃(1501)園圃(1502)園圃(1503)園圃(1504)園圃(1505)園圃(1506)園圃(1507)園圃(1508)園圃(1509)園圃(1510)園圃(1511)園圃(1512)園圃(1513)園圃(1514)園圃(1515)園圃(1516)園圃(1517)園圃(1518)園圃(1519)園圃(1520)園圃(1521)園圃(1522)園圃(1523)園圃(1524)園圃(1525)園圃(1526)園圃(1527)園圃(1528)園圃(1529)園圃(1530)園圃(1531)園圃(1532)園圃(1533)園圃(1534)園圃(1535)園圃(1536)園圃(1537)園圃(1538)園圃(1539)園圃(1540)園圃(1541)園圃(1542)園圃(1543)園圃(1544)園圃(1545)園圃(1546)園圃(1547)園圃(1548)園圃(1549)園圃(1550)園圃(1551)





なことに。まったくその通りに。\*万葉五・八  
三「春なれば宇倍母(ウベモ)咲きたる梅の花君  
を思ふと夜(ト)眠(イ)も寝(イ)なく(イ)板茂安麻呂(カ)  
\*源氏「藤葉」そのかみのおい木はむべもくちぬ  
らし植多し小松も(け)おひにけり」\*俳諧父の終  
焉日記五月十八日「はたと白眼(に)らみ」目ざし  
むべも大蛇ともなるべきおまじ也」  
うべもなし (うべもなく)の形で、副詞的に使わ  
れる。予想していたとおりである。思ったとおり  
はたして。うべなし。\*蜻蛉中・天祿二年三日、  
まだ申のときに、一日よりもけにのりしてくる  
を、あつ一日のやうにもこそあれ、かたはりたれ  
と思ひつゝ、さすがに胸はしりするを、近くなれ  
ば、こころなる男ども、中門おしひらきて、ひざまづ  
きてをるに、むべもなくひきすぎぬ」

うべあけび【郁子通草】名。植物「むべ(郁子)に同  
じ。\*堤中納言よしなし」と「かたがねの松の実、  
みちくの島のうべあけび、こ山の柑子橋かうじたち  
ばなし」(開園繪之図)  
うべうべ【宜宜】「形シク」(うべ)を重ねて形容  
詞化したもの。表記は「むべむべ」が普通であつた  
当然であると思われる状態を表わす。もつともらし  
い。格式ばつてゐる。しかつめらしい。\*枕一六一。  
故殿の御服のころ「むべむべしき所のせんざいには  
よし」\*源氏「帚木」消息文にも、仮名かはんといふ  
ものを書きませず、むべむべしき言ひまはし侍るに」  
\*増鏡「一四春の別れ、むべむべしきころは、天の下にいきぎ  
よくむべむべしき人に思はれたるころなれば」(開園  
おもに連用、連体両形を用いる。(開園繪之図))

うべうり【郁子瓜】名。閉園植物、きからすうり(黄  
鳥瓜)。山城別  
うべくべ【名】(閉園)①差別。区別。「良いものも悪い  
ものも少しもうべくべがつかぬ」(老岐鳥羽)②抜き差  
しして配合をよくすること。品をうべくべして平均  
するようになった。対馬93  
うべし【名】見張人をいう、てきや仲間の隠語。(特殊  
語百科辞典)

うべしんじや【宇部神社】鳥取県岩美郡国府町にあ  
る神社。武内宿禰をまつる。因幡国一宮。大化四年  
(六四八)社殿創建。(開園繪之図)  
うべつみち【東海道】うみつみち(海道)に同じ。  
\*書紀「景行五年八月(北野本訓)是の月に乘輿(す  
めらみこと)伊勢に幸(みゆき)し転りて東海(ウベツ  
ミチ)に入ります」\*北山抄「三・読奏事「東海道、宇女  
都美千うめつみち)又宇倍都道(ウベツミチ)」  
うべなう【名】(平安以降)「むべなう」とも  
表記された。【他】(四)副詞「うべ」に活用語尾  
「なう」の付いた語。「うべ」と思ふ。同意する。願ひ、  
要求などを聞き入れる。うけがう。\*蘇悉地羯羅經承  
保元年中「彼い然も語(ムヘナセ)己らは後に之を

与ふ當(ムヘシ)」。\*大慈恩寺三藏法師伝永久四年点一  
「胡人許諾(ウベナヒ)て、言(われ)注(我)也、師を送  
りて五烽を過ぎむ」。\*観智院本名義抄「可(ムヘナフ)  
\*読本「権説弓張月(後二〇)回「主上(みかど)驚きま  
せ給ひて、茂光(もちみつ)が申す旨を語(ウベ)なほ  
してしめて、茂梅集(島崎藤村)利根川だより二・せめ  
ては雨戸一枚なりとも明けよと所望したるに、心地  
よくうべなひぬ」【自(ハ)四】①服従する。配下  
となる。\*書紀「神代下(水戸本訓)其の不服(ウベナ  
ハ)ぬ者もは、唯星の神香背男(かかせ)をの  
み」\*書紀「綏靖即位前(北野本訓)是に神八井耳命  
溲然(ほぢ)して自服(ウベナヒ)ぬ」②犯した罪に對  
して謝罪する。わがら。\*書紀「景行五六年八月(北野  
本訓)時に蝦夷(えみし)の首領(ひと)の(かみ)足振  
辺(大羽振辺)遠津間男(遠津間)等(の)みて来(ま)うき  
て頓首(つゝ)をがむ。受罪(ウベナヒ)て(尽)ふ」③くに其  
の地(ところ)を献(た)てまつる。\*書紀「繼體二四年  
九月(圖書寮本訓)陛下、国命(おほむよこと)を成し  
て朝に入(ま)りて謝罪(ウベナヒ)まうさむを待ち  
たまへ」(開園繪之図)ウベナヒとも(繪之図)余(シ)〇  
開園繪之図

うべなう【宜宜】(副詞)「うべ」に接尾語  
「な」の付いたものの疊語。同意肯定する意を強く表  
わす。なるほどなるほど。ほんとはんと。まっ  
たくまったく。\*古事記中に「歌詠(うた)倍那(ウベナ  
ウ)の裾に月立たむよ」\*書紀「仁徳五〇年三月、  
歌詠(うた)すみし。わが大君は、于陪離(ウベナ  
ウ)を我を問はすな秋津島(大和)やまとの國に  
雁卵(こ)産(む)と我は聞かず」\*万葉一三・三二九  
五「諸々名(うべなう)母は知らじ 諸々名(うべ  
なう)なむ」父は知らじ(作者未詳)  
うべなむ【諸(宜)】(副詞)「うべ」に同  
じ。\*続日本紀「天平神護元年三月五日、宣命(天地の  
宇倍奈彌(ウベナミ)ゆるして授け賜へる人にもあら  
ず」\*大智度論平安初期点一二「即ち相然可(ウヘナ  
ミ)て一の歡喜丸を以て衆僧に布施き」  
うへん【右辺】①等式、不等式において、等号  
の右側の右にある数式。←左辺。②囲碁の盤面  
で、碁譜にのつた場合、右になる方。(開園繪之図)  
うへん【羽片】①羽毛の一片。②植物の復葉  
で、葉面が二個以上に分かれているときの第一次の  
小葉をいう。特にシダ植物に対して用いる。小葉。  
開園繪之図

うべんかん【ペンカン】(石弁官)【名】律令制の官職  
名。太政官内あつて左弁官と並び、八省のうち兵部、  
刑部、大藏、宮内、四省を管轄する。右大弁、右中弁、  
右少弁によつて構成される。\*令義解「職員・太政官  
条「左大弁一人略」若右弁官不在。則併行之」\*令  
集解「職員・太政官条「穴云遣(遣)使(者)左管諸司事。

左弁官遣之。右管諸司事。右弁官遣之。訴訟事者。  
左京職事。左弁官受推。即付(刑部)右京職事。右弁官  
受推。亦付(刑部)凡出納蔵物事。左弁官。宣(中務)  
出納蔵。大藏省録(受納物)数(申)右弁官也」\*延喜  
式二一「太政官申送調牒及中男物。左弁官右弁官  
准(此)某国申送調牒及中男物。左弁官右弁官  
うべんかん(よ)ウベナヒ」\*右弁官【名】右弁  
官のつかさどる職務に関する文書の起草、出納、保管  
などを行なつた所。  
うほ【禹歩】【名】①(中国)の夏の禹王が、治水のため  
天下をめぐつた結果、ついにびつこになつたとい  
ふ伝説による。禹王の特殊な歩き方。\*荀子注引「  
子非相(禹)之劣十年、不(窺)其家、手不(爪)脛、不生  
毛、偏枯之病、歩(不相)過(人)曰(禹)歩」②(古い)や  
祭のときに、巫者(ふし)が①をまねたところから  
足を進めるときに、一方の足を他方の足よりも前に  
出さない歩き方。わが国では、貴人の外出時、邪氣を  
除くために陰陽家が呪文(じゆもん)を唱えて千鳥足  
で歩くのに従つて歩くもの。反問(へんばい)。\*勅  
記弘安七年六月三日「陰陽頭高朝臣參進、禹歩  
退」\*元和和本下集「返問(へんばい)。天子出御之時、  
陰陽家所(行)也。又謂(之)禹歩(ウホ)也」③病氣  
で足の自由のきかない人。\*わらんべ草二「足なへ  
たる者を、禹歩と名つ」④(大)またで歩くこと。  
開園繪之図 (開園)下学・文明・黒本

うほう【右方】【名】①右の方。みぎがわ。←左  
方。②うほう(右方)の略。\*歌舞品目一五。  
上「石栗又右方に用ふる栗の義にして即(伯)楽の総稱  
なり」(開園ウホー繪之図)余(シ)〇  
うほうの楽【名】。雅楽の中心である大陸からの  
輸入音楽のうち、古代中国系を左方の楽といふの  
に對し、古代朝鮮系の方をいう。別に地名から、前  
者を唐楽とうがく、後者を高麗楽(こまがく)と  
もいひ、楽器編成や曲風が違ふ。また、舞臺を左方  
と右方に分け、左舞(さまひ)、右舞(うまひ)といふ。  
普通、右方の楽は舞臺として奏され、管弦といふば  
あは、左方の楽に限られる。←左方の楽  
うほうの舞【名】「うまひ(右舞)に同じ。←左  
方の舞

うほう【右輔】【名】(ゆうは(右輔))の変化したもの)  
天子の補佐をする臣を左右に分け、その右方をいう。  
うほう【羽旄】【名】雉(き)の羽と旄(ほ)を(う)ぎゅう  
の尾とを、さおの先に飾りつけた幢(はたほこ)。\*淨  
瑠璃・唐船断今国性爺上「清道(せいだう)の大旗羽  
旄(ウバ)ウ風(に)吹(な)びかせ」\*孟子「梁惠王下「百姓  
聞(王)車馬之音(見)羽旄之美」  
うほう【羽帽】【名】羽根飾りのついた帽子。\*歌劇フ  
ォーリストを聴くの記(永井荷風)「われ此にあり(略)  
劍を腰に、羽帽(ウバ)ウを頭に、美しき衣を肩にか  
け」(開園ウホー繪之図)

うぼう【烏帽】【名】①隠者がかぶる黒い帽子。また、  
それをかぶる隠者や紳士をさす。\*翰林胡蘆集四。  
贊人丸、黃塵海裡脫(烏)帽、明石行舟凡(几)回。\*林羅山  
詩集「冬(日)書懷、自是(西南)北(人)、何時(烏)帽遊(紅塵)こ  
\*杜甫相逢歌贈(一)別駕詩「烏帽(杜)塵青、紫衣  
將(衣)紛衣走」②えほし。\*十卷本和名抄四「烏帽  
帽子付(兼)名死(冠)一名頭(衣)十卷音者(烏)帽子俗訛  
烏(為)焉」\*日本外史一・源氏前記「重盛(烏)帽直衣  
而入」(開園)明

うほうこく【ウバウ】鳥卵國(「鳥)は太陽、(卵)は東  
方の意、古く、中国人が呼んだという日本国の異稱。  
\*和爾雅一上「烏卵(ウバウ)國、唐人稱(日本)曰(烏  
卵)言(烏)日也、卵(東)也、見(于)善無畏碑」  
うほうさびつ【右輔左衛】【名】(輔)「弼」ともに補佐  
の意。左右について天子を補佐すること。また、そ  
の臣。左輔右弼。\*淨瑠璃「芳野の内裡十五、兩(う)争  
ふそのいきほひ、うほうさびつ(の)両金剛(こん)がう、  
がうまたに(ま)ち、忿怒(ふんぬ)の勢(せい)」  
うほうだらに【ま】。\*ウバウ(雨宝陀羅尼經)經名。一  
卷。唐の(不)空(ふくう)訳。貧者を裕福にさせるため  
に、妙月という長者が如来から陀羅尼を授かり、その  
呪文(じゆもん)の力で財宝を雨(ふ)らすことができた  
ところから、この經名がある。\*諸阿闍梨真言密教部  
類繪録上「雨宝陀羅尼經一卷、内加(仏)説(雨)宝不空  
真言(新)入(目)録、海仁(円)覺」\*怪談(牡丹)燈籠(二)遊亭  
円朝「八(夫)れい(又)爰にある雨宝陀羅尼經(ウ)ウ  
ダラニ(キヤウ)といふお経を遺るから説讀せよさい」  
\*貞元新定釈教目録一二「雨宝陀羅尼經」卷、經内題  
加(仏)説(雨)宝不空(大)興善寺三藏沙門大智(不)空(詔)訳、貞  
元(新)入(目)録」

うほうどうじ【雨宝童子】(雨宝童子)【名】(りょうぶしんと  
うほうどうじ)て天照大神が日向に下生(げしよ)した時の姿  
という。右手  
を金剛宝棒に  
支え左手に宝  
珠を持ち、頭  
上に五輪塔を  
いだいた童子の像。  
\*淨瑠璃「曾我(我)會(積  
山)四(日)の本(照)らす(日)の御(神)も(雨)宝(うほう)童子(の)子  
御(名)は(あ)ま(ま)す(天)の下」(開園)書

うぼう【ぼう】(副)「(と)を」を伴う場合もある。「うぼう  
ぼう」とも。水面に物が浮かび漂うさま。うぼうう  
ぼう。\*洒落本(風)金窟「一(風)之(浮)水也、汎汎(ウ)ボウ  
ボ)任(去)来(風)こ、雜(俳)類(字)折(句)集「大水(に)うほうほ  
如(来)火(吹)竹」\*歌舞伎「色(一座)梅(棒)二幕「アレアレ、  
うほうほと浮いて居ります。うぼうぼう。心(が)定まら  
ないでう(は)かれています。うぼうぼう。うぼうぼう。  
\*洒落本(風)金窟「使(彼)探(花)子(う)てん(つ)して(泗)涸  
(ウ)ボウ(ボ)な(ら)こ」\*淨瑠璃「双蝶(蝶)輪(曲)日記一六「よ  
い客(が)付(過)ぎて、与(五)郎(殿)を(よ)う(あ)ん(な)う(ほう)ぼに  
し(つ)た(な)ア」



雨宝童子(雨宝童子)の像









うまの ことりづかい 親見出し
うまの 決(さくり) うまさきり(馬決)に同じ。
\*浄瑠璃・加増曾我三あさましやと馬のさくり

うまの しっぽ (1)うまのおむすび(馬尾結)に
同じ。\*洋式婦人束髪法(村野徳三郎編)「じれった
結び(俗に)馬の尻ほとも云」(2)糸をいう、盗人
仲間(隠語)。(日本隠語集) 関園ウマノシッポ
(編)
(3)正月(しょうがつ) 正月、粉餅を雑煮にする
などを馬に食べさせる行事。日は地方によつて
異なるが、大分県下毛郡では七日。

うまの 小便(しょうべん) (1)馬のする尿に
よ。 (2)出の悪い下等の茶や、なまぬるい茶など
をあざけつていう語。\*雑俳・川傍柳二「馬の小便
を左吉は初手に出し」(3)馬が放尿する勢いが
強く、地面が掘れることを「下地(したじ)から惚
(ほ)れる」にかけて。心底(しんそ)から惚れる
意のしやれ。\*新板かわりもんく粋言葉「馬の小便
で、ちがはれてぢや」 関園ウマノシッポ(編)

うまの 毛(す) 馬の尾の毛。馬尾(ばび)。水囊(す)
うまの 糞(す) などの細工に用いるときの称。
\*俳言集「うまのす 馬の尾の毛なり」
うまの 背(せ)を分ける「越す」 夕立などが、馬
の背を境にして分かれるくらい、ある地域で降つ
ているのに、すぐ近くが晴れているさまにいう。
\*歌舞伎・袖薄播州廻二「目・誠に馬の背を越すと
いふが、こころは降ったさうな」\*歌舞伎・網模様
燈籠桐小猿七之助二「三幕」成ほど、馬の背を分
けるといふが、もう西から切れ上つて星がちらち
ら見えて来た

うまの 玉(たま) (1)馬または牛、羊、鹿などの腹
中に生成する灰色または褐色の結石様のもの。酢
苔(さとう)。石黄。けだま。へいさらばさ。\*重
訂本草綱目啓蒙四六・獸「酢苔けだまのたまう
まのたま(略)馬にあるを、うまのたまと云ひ」
(2)「日本の瑪瑙」の異称。\*日本館訳語珍宝瑪
瑙 吾馬那答馬(ウーマナタマ) 關園李時珍
の「本草綱目」に「鮮若生走獸及牛馬諸畜肝胆之
間、有肉囊裏之」とある。

うまの 角(つの) (史記「秦本紀」に「丹求、婦、秦王
曰、烏頭白、馬生角、乃許耳」とある故事から) 決
してあり得ないことのとえ。\*俳諧・宝蔵一「惠
比須大黒棚「福は馬(ウマ)の角(ツノ)牛の玉もあ
れど」 関園書

うまの 爪(つめ) (1)馬の足のひづめ。馬爪(ば
づ)。\*万葉一八四二二「天の下四方(よ)の
道には、宇麻乃都米(ウマノツメ) い尽す極み(大
伴家持)」。\*延喜式・祝詞「祈年祭」馬爪の至り留ま
る限り、長道間なく立ち続けて」(2)親見出し
うまの 面(おもて) 山形県で、雪の中で仕事をす
るときにかぶる菅蓑(かぶり)の帽子。 関園ウ
の穂のしんで編んだかぶり物。吹雪の時などに重
宝する。秋田県仙北郡000

うまの 音(ね) 馬の足音。
うまの 塔(とう) 中世末期から尾張地方で行なわ
れた走り馬行事。熱田神宮の端午の走り馬に始ま
るとされているが、後には大須観音その他の仏閣
の行事に伴って祭礼化し、人馬ともに装いが華美
に向かった。しばしば藩の敵しい取締りを受けて
いた。\*泉令集・愛知県・明治六年一月一献馬馬之
塔棒之手 右従来諸祭事に供し趣趣を以、是まで
願出候は、無益の金錢を冗費致し、加之疵傷を
受け、或は終生廢人と相成候者も有之哉之趣」
うまの 年越(としこし) 岩手県や埼玉県の馬を飼
う家で、正月六日の晩をいう。
うまの 内侍(ないし) (1)巨大な局部の所有者。
\*雑俳・未摘花四「大きな張方を馬の内侍持ち」
(2)丙午(ひのえり)生まれの女をたわむれてい
う。\*雑俳・柳多留一九「度度(どど)後家になつた
は馬の内侍也」

うまの 歯(は) (馬は、その歯によって年齢が推定
できることから) 博勞仲間で行なわれた馬の年
齢を当てるべく。
うまの はなむけ 親見出し
うまの 鼻(はな)を立て直す 馬の鼻先をもと来た
方へ向け変える。\*浄瑠璃・出世景清一五「おのお
の鼻を立て直せしめられ、御馬のはなを立直し、都に
かへらせ給ひけれ」

うまの 腹掛(はらかけ) 馬の腹を腹掛状に包んだ
布。横に屋号などを染め抜いて、多く荷駄にだ
につけた。\*真景累ヶ淵三遊亭円朝四八「寒いか
ら積鼻(ふんどし)の上に馬の腹掛を引掛けて妙
な形に成りまして」 関園ウマノハラガケ(編)
うまの 脊(せ) 馬糧を入れるわら製のふぶ。
うまの 伏起(ふせおこ) 馬に指図をして、前足
を折って腹ばいの姿勢をとらせたり、立ち上ら
せたりして見せる曲芸。\*虎明本狂言「鼻取相撲
云能と申てふかし事もござなひ。弓・まり・庖
丁・ご・双六・馬のふせおこし、あひにはやとま
い ったも仕る」

うまの べら (べら は舌の意) こんにやくをい
う、盗人仲間(べら)の隠語。(日本隠語集)
うまの 骨(ほね) 素姓のわからない下賤の者をあ
ざけつていう語。\*浮世草子・元祿大平記二・三
「よしよしいづくの馬の骨にもせよ、形(なり)から
品(ぶり)からしはたれて」\*雑俳・柳多留一〇「若
殿は馬のほねから御たん生」\*当世書生気質(坪内
逍遙)三落款(らくかん)には、牛首山人書すとあ
れど、何処(どこ)の馬(ウマ)の骨(ホネ)の書いた
のやら(わ)かぬものなり」 関園東京001 高知
県03 関園ウマノホネ(編) 関園書

うまの 耳(みみ) (馬の耳に風(かぜ) または
は「うま馬の耳に念仏(ねんぶつ)」の略。\*浄瑠
璃・心中二枚草紙「人の意見も馬の耳、よそ
吹く風のぶらぶらにて」\*雑俳・柳多留五九馬の
耳蛙のつらに母こまり」\*歌舞伎・小春穂沖津白浪
(小狐村三三幕)「人でのしこのなにか申すも馬
(ウマ)の耳(みみ)」 関園ウマノミミ(編)
うまの 耳(みみ)に風(かぜ) (馬耳(うまみみ)はじと
うふう)による。馬の耳に風が当たると馬はい
つこう気にとめなところから) 人の話が耳には
いって全然心を動かさないことのとえ。馬の
耳に念仏。牛の角に蜂。馬の耳。④うわのそらで、
人の忠告に従う気がないことのとえ。\*酒落本・
陽台遺編「秘戯篇」こないにふても馬の耳に風、
ほにかぜひいたそふな」\*談義本・根無草一前・
「いかに諷め給ふとも、馬の耳の風、牛の角の
蜂(はち)とやらで、さして御(ご)にもならん」\*歌
舞伎・夢蝶島追雪(直)「序幕」異見も馬の耳
に風、打つやら買ふやら乱ち騒ぎ」 関園無知な
ために、高尚なことを聞いても、いっこうに理解でき
ないことのとえ。\*随筆・独寝上五九「この申來
は面白ふたりの物也。さりとて、余などのごと
く馬の耳に風とやらに、いかほど思ひ入の有
る大夫のけしきも、略(りやく)犬に小判のころならん
なれど」\*滑稽本・東海道中膝栗毛四・上「貴さま
たちについてきかせたとして、馬(ウマ)の耳(み
み)に風(かぜ)が、こういふ歌だ」(自分の利益に
ならないことを聞いて、関心を示さないことのと
え。聞いた事柄について、われ関せずの態度をと
ること。知らぬ顔。\*滑稽本・浮世風呂二下「兄
弟他人のはじまりとは能よく云ったもんで、大
勢兄弟衆(けうだい)もあるけれど、馬(ウマ)の
耳(みみ)に風(かぜ)でさっぱり音信不通」

うまの 耳(みみ)に念仏(ねんぶつ) (馬に、ありが
たい念仏を聞かせても無駄であるところから) い
くら言っても聞かせても聞き入れようとせず、きき
めのないことのとえ。馬の耳に風。犬に論語。馬
に経文。馬の耳。\*歌舞伎・鶴千歳曾我門松(野晒悟
助)「序幕」こんな奴に物をいふのは、馬の耳に念仏
だ」\*北東の風(久板栄二郎)四・一「晩ぢゆう枕
元で云うて聞かしたりましたんやけど、まるっき
り馬の耳に念仏でねん」
うまの 目(め) わき見をしないことという。\*雑
俳・宝の市「引かぶり・馬の目で行く頭巾哉」
うまの 餅(もち) 秋田県や青森県で、小正月に飼
馬に食べさせる餅。これを食べさせると馬がじょ

うぶになるという。
うまの 物(もの) 関園刻んだ馬糧。かいば。新潟
県中頸城郡07 富山県03 長野県04
うまの 六具(ろくぐ) 軍陣の馬の防御具の総称。
馬面(まへ)はく、胸懸(むなかけ)、馬鏡(うまやうり)、
鎖手綱(鎖脚絆)きやはん、鉄沓(てつさ)かなぐの六種
をいう。

うまの 草鞋(わらじ) 馬の蹄(ひづめ)を保護する
ためにはかせるわらじ。これを頭に載せると頼棚
(てんかん)の発作がしずまるという俗説があつ
た。\*歌舞伎・三吉三郎初買二幕「こりや頼棚(ち
や)あないか。幸ひ爰に馬(ウマ)の草鞋(ワラジ)、
是を頭へ乗せて遣(や)らう」 関園ウマノワラジ
(編)
うまは 馬(うま)づれ「遣(や)みちづれ」 同類相伴つてう
まいくことのとえ。牛は牛づれ。\*浮世草子・
本朝二十不孝一・三「両方牛角(こ)かくの分限馬
(ウマ)にはむまづれ、網屋(あみ)屋(や)も有べしと沙汰
しけるに」\*浮世草子・御前義経記二「目録」聞は
あやなし馬(ウマ)は道(みち)づれ」\*浄瑠璃・心中
万年草中「いやいや馬は馬づれ牛は牛づれ」
うま 百石(ひゃくこ) 馬一頭を飼うには、祿高百
石の収入が必要なこと。\*警諭尺四「馬(ウマ)百
石とて乗馬(じやうめ)一疋に百石つづ入用掛るも
のと」

うま 遣(や)ろ 馬遣りましようの意。馬方が客
を馬に乗せようとして呼ぶかけ声。\*俳諧・鶉衣
拾遺上・一八八「旅論」あるはいかつ(の)乗合に興を
うしなひ、馬(うま)やろの声を消す」
うまを 牛(う)に替(か)へる「乗(か)へる」 (速い)
馬から遅い牛に乗り替える意から) すぐれた馬
を捨てて、劣つたものに替へるたとえ。↑牛を馬
に乗り替へる。\*諺「馬を牛にかゆる 本朝俚諺
に事林広記云得二牛一還一馬」

うまを 買(か)わんと「問(と)わんと」欲(ほ)してま(う)す
を問(と)う 馬を買おうとするときは、まず牛の値段
を聞いて値の当不当を知れということ。高価なもの
の、値の知らぬのを買おうときは、身近なもの(の)値
段から、その店の懸値(かけ値)を知れということ。
\*警諭尺四「欲問(と)馬先問(と)牛 趙広語也。直不知
物買不(被)買 直問定也」
うまを 鹿(しか) (中国、秦の趙高は丞相となり自
分の権勢を確かめようとして、皇帝に鹿を獻じて
馬と言いはったという「史記「秦始皇紀」の故事から)
人を威圧して、筋を通らないことを無理に
通すことのとえ。鹿をさして馬(うま)という。さきを
からす。\*諺「馬を鹿(しか)を驚(おど)す」

うまを 立(た)つ (1)馬を立ちとめる。\*白楽天詩集一
一九「律詩動政後西柳「平朽臨風樹多情立馬人」
(2)馬を乗り入れる。転じて、在陣する意。\*上杉

家文書大正一二年九月七日・黒金景信書状(大日本古文書二・七八七)「予、今長沼之地被立三御馬之由凶徒指無之」(3)馬を厩(うまぎ)に入れる(日葡辞書)

うまを繫(つなぐ) (権力者の御機嫌をうかがいに来て、その門前に乗馬をつなぐところから)おべつかを使う、へつらうをいう遊里語。\*仮名草子・浮世物語一六「日比(ひごろ)知音の大夫にあひて、ある時は口舌(くぜつ)をいじだし、大にふられて馬をつなぎ」\*評判記・色道大鏡一「時めく人にて、誰も崇敬(そうきょう)して軽薄し、家門に馬(うま)をつなぎ、伺候(しこう)する貞(かた)ち也。其人の氣にたがはざるやうに心にしがたふをいふ。下略して、馬と斗もいふ」

うまをひんまわす 馬を右側の方へ方向を変えさせる(日葡辞書)。\*馬をひんまわす

うまを曳(ひく) 遊里などで遊興費の支払のできな客が、代金受取人を連れて帰る。\*俳諧師高浜虚子二四「流連(りゅうれん)のつづけをしておひが足りなくなりましてね。略(りやく)馬を引いて帰るのを見つともないし」

うまをひんまわす 馬を引つ張って左側に寄せたり、または、左手の方向向きを変えさせたりする(日葡辞書)。\*馬をひんまわす

うま(名) ①母。山形県庄内(幼尼)160 三重県南牟婁郡65 奈良県吉野郡61 長崎県五島(旧福江藩内)04 ②父。山形県庄内39 薩摩府

うまの子(子) ①母親のあとを追っている子。対馬93 (うまんしげ)鹿児島県肝属郡97

うま(味・甘) ①語素 (ク活用形容詞「うまし」の語幹。体言に付く)りっぱである、すぐれているの意を表わす。②味のよい意を表わす。「味酒(うまざけ)」「味飯(うまいい)」。③身分の高いこと、生まれの尊貴なことを表わす。「うま」。④眠りの度合の深いことを表わす。「熟寝(うまひ)」「うまいね」。⑤「うま」の形と「うまし」の形とがあり、中古のシク活用の例と併せて、ク活用とシク活用があったと思われる。そして、だいたい、シク活用の方が、快い、すばらしい、結構だなど、その対象に対する主観的な情意を表わし、ク活用の方が、その対象自体の状態を表現していると考えられ、これが「うま」

「うまし」にも反映しているものと思われる。したがって、たとえば「うまい」を快い眠りと解するのは、少しずれがあると思われる。

うまあい：あま(馬合)名 氣の合った仲間。うまがあらった友。意気投合する仲。\*改正増補和英語林集成「Umare. ウマアヒ 甘合」(因)京都65 兵庫県明石郡66 奈良64 和歌山市66 高知87

うまあきんど 馬商人名 馬を売買する商人。博労(ばくろう)。\*文明本節用集「博労バクラウ馬商人(ムマアキント)也」(因)國語文明本

うまあげ 馬上名 神馬を献上すること。上馬あげうまあげ。\*増鏡八・あすか川「両社にて、馬あげせられけり」

うまあしがる 馬足軽名 軽装備で機敏な行動ができるように仕立てられた騎兵。軽騎兵。\*申陽軍鑑一三九「穴山殿ありずみ大学、ほさか常陸、同弟掃部 馬足軽をかけ候へば、敵もたまらず逃る」

\*武教全書一「馬足軽と云ふは、馬上の兵を撰んで手軽く出立させ、敵の備の内へ乗込みますこと也。古来は人数を持たず、乗引一已の自由なる武者をば、皆足軽といへり」

うまあずかり：あづかり馬預名 江戸幕府の職名。官馬の飼育、調教などをつかさどる役。おうまあずかり。御召馬預。\*徳川実紀「慶長一四年是年、桑島孫六郎吉宗三百石たまひ、馬預となり、駒井とあらたむ」

うまあそび 馬遊名 馬に乗るまねをして遊ぶ遊び。うまごと。うまのり。 (因)ウマアソビ (論)ウマあそび

うまあぶ 馬虻名 昆虫「うまばえ(馬蠅)の異名。 (因)ウマアブ (論)ウマアブ

うまあらうつきぎ うちまらひ：馬洗空木名 植物「くろつき(毒空木)の異名。\*季・夏。\*重訂本草綱目啓蒙一「三毒草、釣吻、略(りやく)黄精葉の釣吻は草木二種あり木本の者はなべわり、加州一名ひとところび略(りやく)うまあらうつきぎ 佐州」 (因)ウマアラウツギ (論)ウマ

うまい：あま(馬居)名 馬に乗っている様子。\*金刀比羅本保元中「白河殿攻め落す事」馬居(ウマキ)：こくら、群にあって、あばれ大將軍也とぞみえし」

うまい：熟寝(うまひ)名 (「い」は寝ることの意)ぐすりと眠ること。熟寝。うまいね。うまね。\*書紀「継体七年九月、歌謡「ししくしろ、于魔伊(ウマイ)ねし」とにはつとり、かけはなくなり」。\*万葉一「二三六九(九)の寝(ぬ)る味宿(うまい)は寝ずてはしきや君が目すらを欲りし嘆かへ人麻呂歌集」

\*隨筆「胆大小心録」二九「晴天にいたるまうまいしたり」 (因)今史平安〇〇〇(念)ウマイ

うまい(名) (因)母。母親。佐渡43 静岡県51(うめ)佐渡48 静岡県下田32 滋賀県高島郡61

うまい：まひ(右舞)名 舞楽の右方(うほう)の舞。古

代朝鮮系の舞踊とその音楽。舞人は舞台後方の向かって右から出入りし、装束は普通緑、青、黄系統の色を用いる。右の舞。右方。右方の舞。うぶ。左舞。\*楽家録一三七「左右舞及人数装束、右舞白浜、舞人四人常装束」 (因)ウマイ (論)ウマイ

うまい(旨・甘味・美)形口(因)うまし(形)口(平安以降には「むまし」とも表記) ①味覚を満足させるような快い味わいについていう。味がよい。おいしい。うまっこい。\*万葉一六・三八五七「飯(いひ)喫(は)めど味(うま)もあらず 行き行けど安くもあらず」佐佐木近習婢)。\*地蔵十輪經元七年点「美(ウマキ)ものなり」。\*蘇悉地羯羅經承保元点「諸菓の其の味次に美(ムマク)して」。\*打聞集「唐僧入六事」心見と此の花を一枝取て一花食ふ。甘(ウマキ)事極無し。\*醍醐寺本遊仙窟康永三年点「口子(くちす)こと艶郁(ウマシ)」。\*史記抄一〇・呉太伯世家「食不重味とは、此に菜は、只一と云様に、うまい物を、二りとも不食、何でまり、一つだにあらば、消化して人間の食へる美味(ウごい)肉に化す」

②ものごとの状態が不足なく十分である。十分だ。完全だ。満足だ。\*大智度論天安二年点「八七(熟(ウマク)諸の苦惱を受けず」。\*南海寄帰内法伝平安後期点「一幸ねがはくは熟(ムマク)之を察して、得失を觀るべし」。\*浄瑠璃・平仮名盛衰記二「欠(あく)まじりの声しはぶき、甘(ウご)ふねてい所を誰じやいの」。③事の運び方にぬかりがない。技術がすぐれて巧みだ。巧妙だ。じょうずだ。\*書紀欽明二年七月(寛文版訓)「夫れ新羅甘(ムマク)言(い)ひて希(めづ)らしく誑(あざむ)くことは、下の下の知れる所なり」。\*浮世草子・好色五人女二・四「されば一切の女移り気なる物にして、うまき咄しに現(うつ)つをぬかし」。\*続歌舞妓年代記一五・天保一二年「成駒屋が上手な事はしれた事だ。公家高家大名町人皆夫々にしわけるが浅草の音吉はうまひものであった」。\*当世書生気質「坪内逍遙」二「世間の交際は極めて精妙(ウマイ)ヨ」。④ある事態や事の流れが、当事者にとって都合がよい。ぐあいがよい。好都合だ。得だ。\*浄瑠璃・国性爺合戦一「ヤアうまひ所へ出合ふたな」。\*浄瑠璃・神靈矢口渡一「女を欺(だま)し爰に留めたは何ぞうまい仕事有るか」。\*雑俳・柳多留一「三むまいことむすめのしゃくの相手也」。\*滑稽本・浮世床初上「まづ第一氷がうまく解た所が、鯉が居すは(うご)くは行かない」。⑤(男女)全裸(外)「さう旨(ウご)くは行かない」。⑥(男女)草子・好色五人女一・二「御心にはしたがひながら、人めせはしき宿なれば、うまひ事は成がたく、しんいを互に燃やし、両方恋にせめられ」。\*浄瑠璃・義経千

本校一三「わりや彌助とうまい事して居るそふなが」\*歌舞伎・お染久松色読取「大切」傍でちりちり千鳥やかんかん鳴がうまい中じやとな」。\*雑俳・柳多留初「年男うまい咄を淋しがり」。⑥(あまい)を①の中で代表的なものとしたところから転じて、うまけつたところのない、まのぬけた様子をいう。まぬけだ。およしだ。締まりがない。あまい。\*浄瑠璃・津国女夫池一「ハアア知ったといふ物か、うまいやつらと片端かたはしに、けちらしけちらし」。\*歌舞伎・幼稚子敵討一六「立てから見ても横から見てもうまいお人じゃわいのせふ」。\*多情多恨尾崎紅葉後・八三「乱れた襟を掻合せながら、どうも這腰(こし)な奇(ウマ)い恰好をして、着更へて参りませう」

團圓(1)ウマは、熟した果実の味をいうウム(熟)からアマシと通じる語(日本積名・国語の語根とその分類)大島正健。ウミシキ(熟如)の義(名言通)。②アマシと同語和句解。③クハシ(妙)の転(言元樹)。

(4)アマムカハシキ甘向及の約転(和訓集説)。 (因)ウマイ(念)ウマイ(伊子)ウマイ(愛知)ウナムイ(鳥取)ウナム(鹿児島)ウマイ(静岡)ウマエ(津軽)ウマエ(岩手)ウマエ(岩手)ウマイ(千葉・岐阜・飛騨・志摩・島根)マエ・マエ(千葉)ムマエ(岡山)ムマエ(福岡)ムマイ(NHK(三重)ムマエ(山形)福島)ウマエ(岩手)秋田)ムマエ(津軽語素)福島(論)ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

本校一三「わりや彌助とうまい事して居るそふなが」\*歌舞伎・お染久松色読取「大切」傍でちりちり千鳥やかんかん鳴がうまい中じやとな」。\*雑俳・柳多留初「年男うまい咄を淋しがり」。⑥(あまい)を①の中で代表的なものとしたところから転じて、うまけつたところのない、まのぬけた様子をいう。まぬけだ。およしだ。締まりがない。あまい。\*浄瑠璃・津国女夫池一「ハアア知ったといふ物か、うまいやつらと片端かたはしに、けちらしけちらし」。\*歌舞伎・幼稚子敵討一六「立てから見ても横から見てもうまいお人じゃわいのせふ」。\*多情多恨尾崎紅葉後・八三「乱れた襟を掻合せながら、どうも這腰(こし)な奇(ウマ)い恰好をして、着更へて参りませう」

團圓(1)ウマは、熟した果実の味をいうウム(熟)からアマシと通じる語(日本積名・国語の語根とその分類)大島正健。ウミシキ(熟如)の義(名言通)。②アマシと同語和句解。③クハシ(妙)の転(言元樹)。

(4)アマムカハシキ甘向及の約転(和訓集説)。 (因)ウマイ(念)ウマイ(伊子)ウマイ(愛知)ウナムイ(鳥取)ウナム(鹿児島)ウマイ(静岡)ウマエ(津軽)ウマエ(岩手)ウマエ(岩手)ウマイ(千葉・岐阜・飛騨・志摩・島根)マエ・マエ(千葉)ムマエ(岡山)ムマエ(福岡)ムマイ(NHK(三重)ムマエ(山形)福島)ウマエ(岩手)秋田)ムマエ(津軽語素)福島(論)ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇

ウマイ(余)ウマイ(因)ウまし(ウマシ)今史平安〇〇



情の変わらないうちに早く手に入れた方がよいと  
いうこと。\*浮世草子・権久二世・上・銀にならざる  
笹の浮世「今時はうまき物は宵(ヨヒ)にといふ事  
口近し」。歌舞伎・韓人漢文手管始(唐人殺し)「  
うまい物は宵に喰へば。先づ足元に有るお金か  
ら」。\*諺「美(ムマイ)ものは宵(ヨイ)にく(へ)  
うまき水(みず)」。よい水。物を生かせるよい水。  
あまきみず。\*令義解神祇・孟夏条「大忌祭謂、広  
瀬龍田二祭也。欲令山谷水變、成甘水、浸潤苗  
稼、得其全稔、故有此祭也」。\*延喜式・祝詞「広瀬  
大山祭出雲板訓「如此く奉らば皇神等の敷き坐  
す山の口(より)さくならりに下し賜ふ水を甘  
水(ウマキミ)と受(う)けて」  
ウマイアチよう：テウ「朝」ウマイアチよう「  
朝」

うまいい：いひ「味飯」名「味のよい飯。うまい飯。  
\*万葉一六三八一〇「味飯(うまいい)を水に醸(か)  
み成し吾が待ちしかひはさね無し直(ただ)にしあら  
ねば(作者未詳)」  
うまいかだ「馬後」名「①流れの急な大河などを騎  
馬で渡るときにとる隊形を、いかだにたとえてい  
った語。数頭の馬を並べてつなぎ、川を渡る方法。強い  
馬を上流に、弱い馬を下流に配置する。馬の筏。\*山  
槐記「治承四年五月二日「伴類十餘騎作時、打三  
馬於河中、橋上方有二步渡瀬、或又雖深淵、以二馬後  
郎等二百餘騎渡河」。\*宇治拾遺「一五二〇、こひも  
らぬ淵にでんありける。馬後を渡りて泳がせけ  
るに、かちはそれにとりつきて渡りけるなるべし」  
\*太平記一八・三月二日合戦事「佐用(さよ)上月(か  
う)つきの、馬つはもの三、千餘騎、一度に颯(さ)と  
打入て、馬後(ウマイカダ)に流をせきあげたれば」  
②馬を運ぶためのいかだ。 関園ウマイカダ 倉之  
関 今史江戸 〇〇〇〇 倉之関

うまいくさ「馬軍」名「①馬に乗った兵士。騎馬の  
兵。騎兵。むまいくさ。うまいくさ。うまつわもの。  
②徒歩軍(かちいくさ)。\*書紀仁徳五三年五月(前  
田本訓)「是に田道精(す)じれる騎(ムマイクサ)を連  
ねて其の左(ひだり)のかた(を)撃つ」。\*書紀雄略八年  
二月(図書寮本訓)「乃ち奇兵(か)くくれのつはもの」  
を縦(た)なち(だ)して、歩(か)ち(い)くさ(騎(ムマイク  
サ)夾み攻めて大に破りつ」。②騎兵による戦い。騎  
馬戦。③徒歩軍(かちいくさ)。 関園ウマイクサ  
倉之関

うまいぐるい：ぐるひ「盲狂」名「うまいものを求め  
て飯を歩くのに熱中すること。また、その人。美食家。  
\*食名草子・可笑記「五」飲み食ひ物のむまい狂ひか、  
金銀をまうくる事か、遊山川(う)がり(某)ところ(を)なぞ  
うまいこ「名」関園児童語。うまい物。菓子。青森県  
118 岩手県和賀郡 秋田県鹿角郡 函  
うまいし「馬石」名「鉱床の中に鉱石や脈石と混じ

って含まれる母岩の破片のうち、特に大きなもの。  
中石(なかいし)。 関園ウマイシ 倉之関  
うまいし「馬医師」名「①馬の病気を治療する医者。  
馬医(ばい)。馬医(めり)の。②馬寮(めり)の職員。  
左右馬寮にあつて馬の治療を職掌とする。従八位上  
相当。定員二人。\*九層「九条殿」五月節・天慶七年  
五月三日「官人率三馬医師・近衛・兵衛官人等」。\*続古  
事談「五」此の賞に、忠延左馬医師になされけり」  
関園ウマイシ 倉之関

うまいし「馬医者」名「うまいし(馬医師)①に  
同じ。俳諧・古今俳諧問題集「秋馬医者の直して通  
る案山子哉(左)静」。 関園ウマイシヤ 倉之関  
うまいち「馬市」名「軍馬や儀式・役畜用の馬を一定  
期間売買する市。主として産馬地で行なわれたが、江  
戸時代には都市でも開催され、馬喰(ばくろ)町、馬  
町などの地名をとどめている。馬の市。\*大乗院寺社  
雜事記「文明一七年七月五日「元興寺南大門前馬市立  
初之、古市之所行也」。\*東海道名所図会三「池鯉鮒馬  
市 毎年四月廿五日より始めて五月五日に終る」。\*お  
もひ草「佐木信綱」馬市(う)ま(馬)か(ひ)て(か)へ(る)さ  
の野路(お)も(し)ろ(き)鈴(虫)の(声)」。 関園ウマイチ 倉之関  
関 倉之関

うまいて「馬出」名「うまだし(馬出)に同じ。  
うまいな「名」関園植物。①たか(な)高菜。三重県・  
京都府の各一部②ふだ(な)か(な)高菜。三重県・  
滋賀県・大阪府・京都府・奈良県の各一部③  
うまいね「熟寝」名「うまい(熟寝)に同じ。\*二人  
女房「尾崎紅葉」上・五「新八心持好さうに熟睡(ウ  
マイネ)して、折々顔に来る蚊を現(うつ)つて撲た  
たく」。\*義血侠血(泉鏡花)九「駁者は夢にも知らで  
熟睡(ウマイネ)せり」  
うまいのそし「うまいのサツ」(馬医草子)絵巻物。一  
巻。作者不詳。文永(一二六四―七五)ごろの作。伯  
馬以下八人の馬医などの肖像画にそれぞれ馬の絵を  
配し、呪文(じゅもん)や馬医の名を書き、巻末に一七  
種の薬草を写生したもの。馬医の秘伝書とみられる。  
関園ウマイノソシ 倉之関

うまいものや「冒酒屋」名「露店の飲食店。雑俳・昔  
翁評万句(宝暦一三)「うまいもの屋にはまる小でつ  
ち」。\*黄表紙「孔子孺子時監獄中」あの子介が、下馬  
へ出るうまいものでござるから」。 関園祭や縁日  
に玩具や駄菓子を売る露天商。富山県礪波地方 関  
関園ウマイモノヤ 倉之関

ウマイヤチよう：ヤ「朝」(ウマイヤは Umayya)  
①スラウ王朝の一つ。前ウマイヤ朝(六六一―七五  
〇)と後ウマイヤ朝(七五〇―一〇三三)がある。オ  
ンヤ朝。ウマイヤ朝。②前ウマイヤ朝。ウマイ  
ヤ家出身のムアウイヤがダマスカスを都として開い  
た。七五〇年一四代(のときアッパ)ス家に滅ぼされ  
る。③後ウマイヤ朝。ウマイヤ朝の滅亡後、その

一族アブドゥルラフマーン一世が七五六年コルド  
バを首都として再興し、イベリア半島に威をふる  
つた。一〇三一年滅亡。 関園ウマイヤチヨウ 倉之関  
ウマイヤモスラム(Umayyad mosque)シリアのダマス  
カにあるイスラム大寺院。七〇五―七一五年に建  
設。ビザンチン時代のキリスト教会を改造したもの  
で、初期イスラム建築の精華。 関園 倉之関

うまいり「馬入」名「大将が城中にはいること。\*甲  
陽軍鑑品二「いつにもすぐれ大雪にて、冬よりも  
結句駿寒ましたり。それゆへ敵は見えず早々御馬入  
(おうまいり)なり」。 関園ウマイリ 倉之関  
うまいり「馬入」名「関園耕作地などの小路。群馬  
県勢多郡横野 23 東京都多摩郡 29 神奈川県愛甲郡  
283 長野県 04

うまいり「種」(連語) (動詞「うむ(生)の未然  
形に継続の助動詞「ぶ」の付いたもの) ほとんど産  
む。幾人も産みふやす。\*万葉一六三八四〇「寺寺  
の女餓鬼申さく大池(お)は(み)むの男餓鬼たはりて其  
の子播(う)まは(む)池田朝臣(名)未詳」。  
うまいり「馬魚」名「関園魚(たつ)のおとし。和歌  
山県日高郡塩屋 69 (うまい)高知県 04

うまいり「馬打」名「馬に乗って進み行くこと。ま  
た、その乗りざま。\*松井本太平記二五「天龍寺建立  
之事」馬打の次第、事の体前代未聞の見物也。\*義貞  
記「馬打事。指たる合戦の場にもあらざるに先を諍ふ  
事なかれ。淨瑠璃・小袖曾我「五」きやうだいの物共  
が、馬うち(れ)い(き)の(た)だ(し)さよ」。\*隨筆・貞丈雜記「  
一三」馬打の事、小路のまん中を打なと旧記にある  
は、打とは馬を乗る事也」  
うまいり「馬独活」名「植物「ししうど(猪独活)」の  
異名。\*重訂本草綱目啓蒙九・山草「独活羌活しし  
うどいぬらとうらうらと 城州 貴船 関園神奈川  
県津久井郡 286

うまいり「乳」名「(うま)は形容詞「うまい」  
の語幹。幼児語。①乳。母乳。\*歌舞伎・靈驗曾我  
離「八幕」抱き子泣く。これにて抱(いだ)きしめ「ド  
レドレ、うまうまを呑ませせうか」。\*ふらんす物  
語「永井荷風」新嘉坡の数時間「どうしたの、うまう  
ま」と呼びながら、略人前恥ぢず、青黒い乳房を  
手で引出した。\*家(島崎藤村)上・七「それい、乳房  
ま」と子供に乳房を咬(く)させたが」。②おいしいも  
の。食べ物。\*歌舞伎・四天王「楓江戸粧」四立「何ぞう  
まうま買うてやりたいが、山中の事なれば、自由にな  
らぬ」。\*雑俳・智恵くらべ「に」たり笑ひ。うまうま異  
る伯母覚(へ)。\*野分「夏目漱石」六「小供が食物の事を  
うまうまと云ひませう。あれの来歴ですな」。③「副  
」(うま)は形容詞「うまい」の語幹。「うまうま」と  
形をとることもある。まれに「うまうまする」の形も  
ある。まんまと。\*史記抄「六」項羽本紀理も不消し

て、うまうまもないが、此本に作謂たは文も義理も  
よいぞ。\*淨瑠璃「生玉中」上「うまうまよふ喰  
(く)はせたなあ」。\*歌舞伎・勝相撲浮名花触「中幕」お  
身様をだしに使ひ、白藤ぐるめ「はいはめ、短刀に切  
れ文を、骨折らずに取つたのだ。なんとな、うまうま  
れ狂言」。\*怪談牡丹燈籠「三遊亭月朝」一五「漁船  
(れうせん)よ、り我を突き陥(お)とし、命を取た晩に、  
うまうま此飯島の家を乗取らんとおの悪計(わるだく  
み)」。 関園ウマウマ 倉之関  
関 倉之関

うまうまい「形口」(うまうま)し「形シク」だれ  
にでも好感を持たれるようにしようとするを言っ  
たり、行なったりする様子。\*日葡辞書「Thavmaxia  
(ウマウマシユウ) モノヲユウ ヒトヂヤ」。\*仮名草  
子・元の木阿彌「下」座敷の首尾をわれらつくるひ申  
さんとうまうましくも申しければ」  
うまうまし「名」(形容詞「うまうましい」の語幹  
に、接尾語「さ」の付いたもの) うまうましいこと。  
また、その度合。\*日葡辞書「Thavmaxia(ウマウマ  
シヤ)」。  
うまうち「馬占」名「給馬による年占(としうら)」。  
四月二日(古くは三月二日)の京都東寺の御影  
供(みえい)に、灌頂院(かんちやういん)の境内に  
ある阿伽寺(あかてら)の軒先に掲げられた給馬三枚  
を毎年掛け替えるが、その給馬の状態でその年の作  
物の豊凶を占う。給馬は弘法大師作という。  
うまえる「動」関園「湯に水をさしてぬる。う  
める。隠岐島知夫 76 徳島県海部郡 85 高知県 87  
②濃い物に水などをさして薄める。「小さい赤ん坊に  
はうまえた牛乳を飲ませる」高知県 87  
うまおい：おひ「馬追」名「①野生の馬をさくの中  
に追い込んで捕獲すること。また、放牧の馬をさくの中  
に追い込むこと。\*上井覚兼日記「天正二年九月一日  
「如」常出仕申候。従和泉・瀬崎之馬追被「成候」②  
荷や客を馬にのせて追って行くこと。また、その人。  
馬方。馬子(まこ)。\*本草本伊曾保馬と驢馬との事  
「ソゴデコノ ymaoia(ウマライウ) ショウウコトガ  
ノウテ、ロバニツケタニモツヲモトゴトクウ  
マイビキニトリリケケテ」を淨瑠璃・丹波作侍待々  
の小室節「中」千三百石から馬を追込、なりさるほ  
んのこぼ」。③「うまおいむし(馬追虫)」の略。\*季・  
秋「唱歌」虫のこゑ(文部省唱歌)「あとから馬おひ  
おひついて、ちよんちよんちよんちよん、すいっちょ  
ん」。\*あらたま斎藤茂吉「馬追(ウマオヒ)の来  
啼ける夜となりけり」と人に告げさらむさきのさびし  
さ」。 関園 倉之関  
②(か)つ(こ)う(郭公)。福島県石川郡 030 関園ウマオヒ  
倉之関 倉之関  
うまおい船頭(せんどう)お乳(ち)の人(ひと)「う  
また(馬方)船頭お乳の人①に同じ。\*評判記・

試读结束：需要全本请在线购买：www.ertongbook.com